

# 令和元年度 病害虫発生予察 注意報 第3号

令和元年10月2日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

対象作物：イチゴ  
対象病害虫：ハダニ類

- 1 対象地域 県内全域
- 2 発生面積 多い
- 3 発生量 多い
- 4 発表の根拠

9月中旬の巡回調査では、発生圃場率、寄生株率ともに平年より高かった。

発生圃場率：60.0%（平年：18.0%、前年：50.0%）

平均寄生株率：32.4%（平年：6.0%、前年：18.8%）

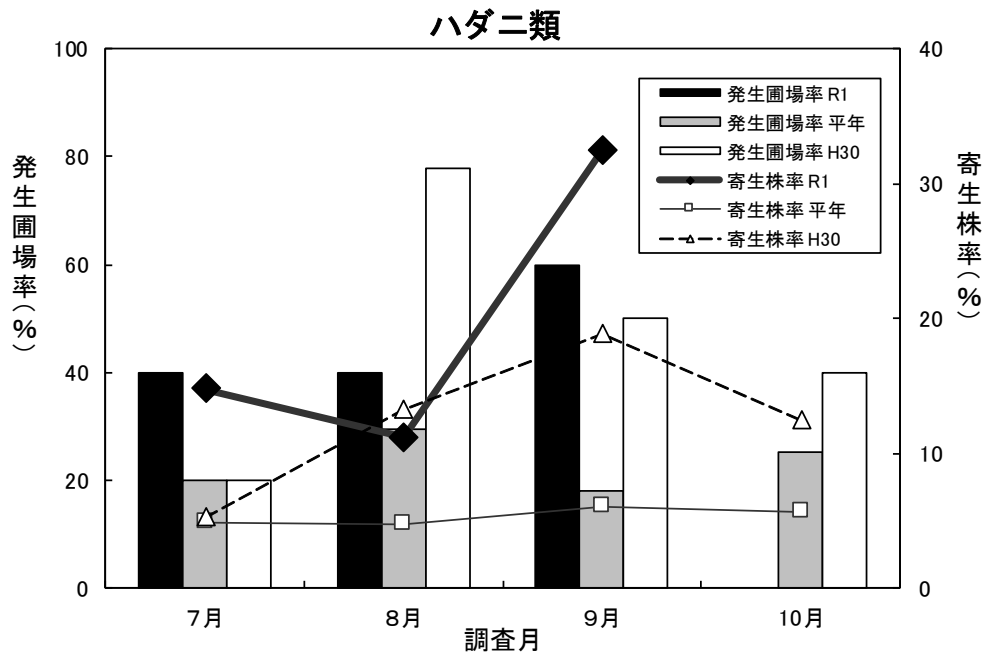


図 病害虫発生予察巡回調査におけるイチゴハダニ類の発生推移

## 5 防除対策

- (1) 本虫は高温乾燥条件で多発しやすく、本圃では10月のビニール被覆後から増加しやすくなる。寄生密度が上昇してからでは防除が困難となるため、ルーペ等を用いてよく観察し、早期発見に努めて速やかに防除を実施する。
- (2) すでに多発生が認められている圃場では、気門封鎖剤を中心に複数回防除を行ってハダニ類の密度を下げてから天敵（カブリダニ類）を導入する。

- (3) 気門封鎖剤に展着剤を加用すると効果が落ちるため注意する（サフオイル乳剤は加用を推奨）。なお使用実績のない剤は、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認する。
- (4) 本虫は紫外線を嫌って下葉の裏に多く生息するので、薬液が葉裏にかかるように丁寧に散布する。また、短期間に複数回散布すると効果が高まる。散布は曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行い、薬害に注意する。
- (5) 天敵に長期間悪影響を及ぼす薬剤があるため、天敵の導入にあたっては薬剤の選定に十分注意する。
- (6) 天敵導入後ただちに薬剤散布を行うと殺菌剤であっても天敵への悪影響が懸念されるため期間を空ける。また防除薬剤には展着剤も含めて天敵への影響が少ないものを選定する。
- (7) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」(<http://www.jppn.ne.jp/oita/>)の「いちご」「野菜類」の項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに従って使用する。



病害虫対策チームホームページ